

『ヨーロッパ、アジア、アフリカほかの様々な服装図集』

図書館司書長 佐藤 俊子

本書 (Recueil de la diuersité des habits, qui sont de présent en usage, tant es pays d'Europe, Asie, Affrique & Isles sauvages, Le tout fait après le naturel) は、ルネッサンス期の1562年にパリで出版された服装の古典書の複製本である。第3版 (1567年)を底本に、1944年12月25日 (第二次世界大戦中)に企画され、95部のみ限定出版された。ヨーロッパで刊行された数ある『服装書』の、今日確認されるなかでの最初の出版の一つであり、記念碑的古典書といえる。

ヒラーの書誌およびリップハイデの書誌にも同様なこと (最古の『服装書』) が記述されている。ほとんどの図版は各国諸地方の男女の服装が二人一組になって描かれていること、また、パリでは1564年 (第2版) と1567年 (第3版) に出版され、第3版の複製が1927年にリヨンのAudin社から出

版されたことなども記されている。

リップハイデの書誌によれば、1567年の第3版は、ヴォルフェンビュッテル (ドイツ北部、ニーダーザクセン州東部の都市) の図書館が所有していた初版本 (1562年) の複製本で、原画者は不詳としている。

出版者リシャルド・ブルトン (Richard Breton) により刊行された原書は、全64紙葉で、第1紙巻頭がタイトル、年記および旧約聖書のエヴァ (Eve) を描いた寓意画によって構成され、裏面の第2ページには、緒言が記されている。第2から第3紙葉の4ページには、本書の著者と想定されるフランソワ・デゼール (François Deserps, 詳細不明) の名によるブルボン家アンリ・ド・ナヴァール公 (Henri de Navarre, 後のアンリ4世) への献呈文および本書に収録された世界各国諸地方の服装の概説が述べられている。

原書の初版本が刊行された当時の時代背景には、ヴァシーの新教徒虐殺事件およびユグノー戦争 (1562-1598) があり、また新教徒のアンリ・ド・ナヴァール公が、1589年に即位してアンリ4世 (Henri IV 1553-1610, 在位1589-1610) となり、ブルボン朝を創始したことなどが挙げられる。

残り61紙葉には表裏1図版ずつ、フランスの騎士、貴族、貴婦人をはじめ、医者、農耕民などの庶民の衣装から、イタリア、イギリス、オランダ、ポーランドなどのヨーロッパの人々、さらにはアフリカ、アジアなどの想像上の土着民、ムーア人、トルコやアラブの軍人等々、実際に取材したものから、想像によって描かれたものまで、木版画による服装図、総計121点が収録されている。

これらの121点の図版は、それぞれ縦14.5cm



「フランスの貴婦人」

横8.3cmの8種類のフレームによって縁取られ、下段にそれぞれ解説を込めた押韻4行詩が付されている。テキストおよびこれらの4行詩はルネッサンス期の古フランス語で書かれており、文学史的にも興味深いものとされる。

1562年刊行の本書の初版本は、今日パリ国立図書館、パチカン図書館、大英博物館など名だたる世界的図書館に収蔵されていることが確認されている。なお、この服装書には1564年刊のほかには本書の底本となった1567年の第3版が存在しており、さらにはこの第3版には、リッパハイデ文庫所蔵版とサウスケンジントン美術館蔵版がある。著者フランソワ・デゼールについては、木版画家であること以外不明であると前にも触れた。

本館所蔵の本書は、すべての体裁および寸法までを完全に復元したもので、95部のうちの15部だけチャイナ紙に刷られたものの1部である。

図“La Damoysele”「フランスの貴婦人」のドレスは、1530年以降のフランスの服装に対して、スペイン・モードの影響を示している。すなわち、ヴェルテュガダン (vertugadin、英語のfarthingaleでいわゆる輪骨) と呼ばれる腰枠付きの円錐形ス

カートで、創案は15世紀末のスペインに見られ、16世紀初頭にフランスに導入された。

ヴェルテュガダンは、スペイン語のヴェルデュゴ(verdugo)に由来する。ヴェルデュゴは緑の若木を意味し、元来、ヴェルテュガダンが、若木を骨組みとして作られたことに発している。

図“La bourgeoise de paris”「パリの有産階級」のスカートの裾からヴェルテュガダンが見えている。それは藤やしゅろなどの莖、鯨ひげ、針金などを芯に何段も輪にして提灯の骨状にそろえ、表面を糊付けした麻布で覆って構成された。

また、その袖には詰め物がなされ、マユートル (maheutre) とかブーフアン (bouffant、いわゆるジゴ袖) と呼ばれる袖付けで極度に膨らみ、手首の方でぴったり細まる袖だった。

図“La Flamende”「フランドルの女性」にも見られるように、シャトレーヌ (chataleine) と呼ばれる「帯飾り鎖」に鍵、時計、小さい飾り物等を下げた。当時の貴婦人の服装に扇は、いつも優雅な雰囲気を与えており、それらが落ちないように帯や鎖で吊るして、手に持てるようになっていた。

*本書の請求記号は (K383.1-R) です。



Labourgeoise de paris
Féme on ne voit plus belle, & plus courtoise
Se montrant chaste avec son vestement,
Que dans Paris, ou est mainte bourgeoise,
Telle qu'elle est peinte icy viuement

「パリの有産階級」



La Flamende,
Au vif tiree est ceste pourtraiture,
D'une Flamende ainsi expressement,
Si fut les lieux vous n'allez: sa vesture
Est peinte icy labouieusement,

「フランドルの女性」